

農作物生育・技術情報5号

日高農業改良普及センター日高西部支所
JAびらとり JA門別町

1 水稲生育状況 (7月15日現在)

品種名	生育状況			生育の遅速
	項目	29年	平 年	
ななつぼし	草丈	68.2cm	62.4cm	+3
	葉数	10.8葉	10.1葉	
	m ² 茎数	674.0本	608.5本	
	幼形期	7/6	7/6	

幼形期は平年並ですが、7月に入ってから的高温により生育が進んでいます。成苗ポット育苗や「ゆめぴりか」等の品種によっては、止め葉が完全に抽出しているほ場も見られます。自分のほ場を確認して、生育にあった水管理を行いましょう。

技術対策

○冷害危険期終了の時期をつかむ

止葉が完全に出て「止葉の葉耳」と「前葉の葉耳」の間が「+5cm」となる頃まで（全茎の8割の葉耳間長が「+5cm」になるまで）です。

※ 冷害危険期の終了後は、根に酸素を供給するため直ちに落水し中干しを行います。中干しのポイントは、出穂直前まで水田内を歩行しても、ぬからない程度です。その後は湛水状態に戻しましょう。

○いもち病の発生について

北海道病害虫防除所BLASTAM(ブラスタム)より、日高管内では、いもち病感染好適日が7月上旬に出ましたが、その後は出ていません。今後もしもち病が発生しそうなほ場は、特に注意して観察しましょう。

2 主要野菜の生育状況

作物名	生育状況	技術対策
トマト	<ul style="list-style-type: none"> 5月定植は6~7段目が開花し、第1~2段花房収穫中。一部4~5段目に落花、がく枯れが見られる。 6月定植は3~4段目が開花。 7月の高温で尻腐れ果、日焼け果、軟果が発生している。 灰色かび病、半身萎凋病、かいよう病、アザミウマ類が一部で発生している。 	<ul style="list-style-type: none"> ベツ内側の葉を中心に摘葉を行い風通しを良くする。 強日照が予想される場合は、しゃ光資材や二重カーテンを利用し、日焼け果等を防止する。 適切な土壤水分、肥培管理に努める。
ハウス軟白ねぎ	<ul style="list-style-type: none"> 2~3月定植作型収穫中。 ハマグリハエ類、タマキハエ、アザミウマ類萎凋病、小菌核腐敗病、葉先枯れの発生が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> タマキハエ防除は土壤深2~3cmまで薬液が浸みるようにする。 アザミウマ類が多発した場合は散布量を多くする。白クローバーの除去を徹底する。 葉先枯れは黄色斑紋症状の原因となるので早めに防除を行う。
アスパラガス (ハウス立茎)	<ul style="list-style-type: none"> 灰色かび病、斑点病、アザミウマ類の発生が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ハウス周辺の除草を行う。 摘葉後の残渣を整理する。

* 日高管内でネギアザミウマに対する合成ピレスロイドの抵抗性が確認されました。今後は合成ピレスロイド系薬剤の連用を避け、ローテーション防除を行いましょう。

3 畑 作

- (1) 秋まき小麦
 子実水分は35%から収穫可能です。
 水分測定により収穫時期を判断しましょう。
*赤かび病の多発したほ場は別刈とし、分けて乾燥調整作業を進めましょう。
- (2) ばれいしょ
 開花後は茎葉から塊茎へのデンプン等の養分転流量が増加する時期です。
 茎葉は病害に侵されやすくなるので疫病や軟腐病等の発生に注意が必要です。
 ほ場を良く観察し、発生状況に注意しながら予防防除に努めましょう。

【発生環境と防除例】

	疫 病	軟腐病
発生環境	気温：18～20℃ 多湿	気温：25～30℃ 多湿 寝苦しい夜が続くと要注意
未発生ほ場	グリーンペンコゼブ(水) フロンサイド(水) ダコニールエース	コサイド3000
発生ほ場	ホライズンドライフフロアブル ランマンフロアブル	スターナ(水)

- (3) 豆類
 ○大豆 ベと病の発生が上位葉に多い場合は防除しましょう。
 ○小豆 菌核病、灰色かび病の防除は開花始後7～10日目に1回目防除しましょう。

菌核病・灰色かび病防除例：スミレックス水和剤

- (4) てんさい
 ○褐斑病：高温、多湿条件で発生しやすい。連作や前年発生した隣接畑では早期の発生や、多発生の恐れがあるため、定期的な防除を心がけましょう。
 ○ヨウトウガ、カメノコハムシ：食害を確認後、薬剤を茎葉処理しましょう。
 *てん菜栽培技術情報を参考に防除を実施してください

4. 牧草生育状況（7月15日現在）

作物名	生 育 状 況				適 要
	項目	29年	平年	遅速日数	
牧草 (2番)	草丈	27.4cm	27.4cm	±0	生育は平年並み
デントコーン	草丈 葉数	158.6cm 11.6葉	150.2cm 12.8葉	-1	7月上旬は気温が高く、生育がやや回復した。

牧草の生育を適正にし、牧草割合を高めるため追肥を行いましょう。

- 追肥により、収量が高まります。
- 追肥により、分けつが発生し牧草割合が無追肥より高まります。(雑草の侵入防止)

5. 農薬の安全使用

- ◎農薬使用基準を遵守しましょう。
 農薬のラベルを良く確認し、適用作物、使用量・濃度、使用時期、総使用回数、使用期限等の基準を必ず守りましょう。
- ◎農薬の飛散に気をつけましょう。
 水稻の防除作業が本格的に行われています。
 水田防除時には、隣接しているビニールハウスの入口、側面を閉め、農薬飛散防止に努めましょう。